

講義名	文化人類学特論
(副題)	
講義区分	講義
基準単位数	2
時間割	水曜日2時限
授業科目区分	教養科目—歴史と文化
履修区分	選択科目
配当年次・学期	3・4年次前期

担当教員

氏名

◎ 石倉 敏明

唐澤 太輔

授業の到達目標及びテーマ	この授業では現代の人文諸科学の成果を横断的に参照しながら、生命を懐胎し、出産し、育むものであり、また死をもたらす恐ろしいものとしても表象される女性や母性についての神話的イメージを探る。人類の想像力や創造性と女性性一般の関係を考察することによって、「人間が生まれること」の意義やその芸術表象の歴史を探究し、生態系と人間、古代的なものと未来的なものを繋ぐ思考力や表現力を養う。
授業の概要	本講義では主に「女性性」や「産む／生まれること」を探究の主題としながら、哲学、比較神話学、宗教学、生物学、人類学、ジェンダー研究、精神分析学などの手法を通して、人びとの生活にとって欠かすことのできない自然と文化の関わりについて探究する。その際、精神分析学における母子関係論において論じられてきた母と子の間の他者関係を、新たな角度から再考する。 講義の後半は、世界中の神話で重要な役割を担ってきた動物や植物といった非人間の生物、山や海といった自然景観、木材や毛皮といった材料、「山の神」「海の神」等の聖性表現に着目し、その根源にある産出力と破壊力、創造性と否定性を理解する。また、折形のデザインや捕鯨伝承に伝えられる贈与思想の探求をとおして、私たちを取り巻く世界との関わりにおいて求められる実践的な倫理のあり方や、複数種が共存する状況での新しい自然思想・贈与思想・芸術思想を探求する。
授業計画	第1回～2回 懐胎すること、生まれること ～「贈与」の根源性 第3回～4回 エロティシズムについて ～他者の受け入れと二重の生命 第5回～6回 母子間の潜在空間 ～ ウィニコット、メルツァーの研究から 第7回～8回 母子神の世界的展開 ～「桃太郎の母」の環太平洋的広がり 第9回～10回 「包み」と「結び」 ～デザイン化された産出性 第11回～12回 芸術・贈与・貨幣 ～「価値を生み出すもの」としての芸術 第13回～14回 「他者を食べる」／「他者を産む」 ～宇宙的食物連鎖について 第15回 まとめ ～「内なる野生」への通路を拓く (定期試験)
授業時間外の学習内容等	各自の関心に応じて、関連文献を調べておくこと。
評価方法	授業への取り組み 30% 課題の成果（試験、レポート） 70%
履修上の注意	新しい研究成果を授業に反映させるため、各回の内容や順番を変更することがあります
テキスト	各回のテキストは適宜配布します。
参考書・参考資料等	三木成夫『胎児の世界』『海・呼吸・古代形象』、中村祐子『マザリング』、宮原優『フェミニスト現象学入門』、マリリン・ストラザーン「自然でもなく、文化でもなく ハーゲンの場合」、ネリー・ナウマン『山の神』、中沢新一『精霊の王』、石倉敏明他『折形デザイン研究所の新・包結図説』、ジュリア・クリステヴァ『女の時間』『恐怖の権力』、フランソワーズ・ルークス『＜母と子＞の民俗誌』他。

講義名	東北生活文化論
(副題)	
講義区分	講義
基準単位数	2
時間割	木曜日3時限
授業科目区分	教養科目—歴史と文化
履修区分	選択科目
配当年次・学期	1・2年次前期

担当教員

氏名

◎ 石倉 敏明

授業の到達目標及びテーマ	東北には、生と死、人間と非人間を分離することのない、特徴的な文化が現在も各地で継承されている。本講義では秋田を中心に、東北地域全般の特色ある生活文化を主題とする。各地域の文化的多様性を正しく理解することによって、国家以前から多種多様な集団が共存し続けてきたダイナミックな場所性の認識を再獲得し、地球規模の見取り図の中に東北を位置付ける視点を学ぶ。講義の主題に関係するさまざまな資料だけでなく、物語や芸術表現（作品・プロジェクト・建築等）を参照し、新たな世界形成のなかに活かされる歴史的存在論を獲得する。
授業の概要	東北の人々が口にする「故郷には何も無い」というありふれた認識は、果たして正しい歴史や社会的現実を反映しているのだろうか？大都市圏出身の多くの知識人やアーティストが陥ってきた「進歩的な都会」vs「経済発展が遅れた田舎」という二項対立の認識は、果たして正当なものだろうか？無意識のバイアスは、むしろ豊かな歴史を歪め、地方と都市の位置付けを乱暴に固定してきてしまっているのではないだろうか？ この授業では旧石器時代・縄文時代から現在に至る東北地方の生活文化史を概観すると共に、特に秋田地域で育まれてきた生活様式や生業のあり方、祭礼、行事、芸術、思想について、周辺地域の特色とも比較しながら考察する。人類学をはじめ考古学、民俗学、神話学、生態学などの横断的な見地から東北地方の実態を見つめ、地域文化の独自性や、近代において創られた伝統の特徴を、さまざまな角度から検証する。また、アイヌや蝦夷（先住民）の文化との関連を考察することにより、この地域の里山・里海・里川での生活文化を、日本列島を越えて東アジアや環太平洋の文化的なつながりの中に位置づけ、人類の普遍性の中で地域社会の文化的なルーツを探究する。
授業計画	第1回 世界のなかの「東北」 環太平洋における縄文文化 第2回 旧石器時代から縄文時代への連続性・不連続性 第3回 源流としての狩猟採集生活 プナ帯の生態、狩猟採集文化について 第4回 「東北の隣人＝他者」としてのアイヌ文化を知る アイヌモシリとは何か？ 第5回 アイヌと東北の生態宇宙論 第6回 神仏和合の山々 出羽三山と鳥海山他、山々の神話学 第7回 死と再生の森 曼荼羅と母胎、ウバサマ信仰・ハヤマ信仰の広がり 第8回 水界のフォークロア 三湖伝説と藻が海伝説 第9回 里山と里川 身近な自然との関わり、鮭と熊の神話 第10回 東北的アニミズム 草木供養塔と本覚思想 第11回 神話・芸能・伝承 だんぶり長者伝説と大日堂舞楽 第12回 来訪する精霊 ナマハゲからサンタクロースまで 第13回 マタギの思想と実践 第14回 鎮魂と創造 東日本大震災以後の東北像 第15回 「裏日本」文化論 「環日本海」からの視点 （担当：唐澤太輔先生） （定期試験またはレポート）
授業時間外の学習内容等	・各自の関心に応じて、特徴ある文化を伝える場所やまつりに適宜出かけてみることに。 ・関心のある地域の行事を観察し、積極的に参加してみることに。 ・映像や文献史料を通して、学問分野を超えた「歴史的視点」を養うこと。
評価方法	授業への取り組み 30% 課題の成果（試験、レポート） 70%
履修上の注意	配布資料のほか、適宜映像資料を使用します。なお、新しい研究成果を授業に反映させるため、各回の内容や順番を変更することがあります。 *第15回は、唐澤太輔先生の担当を予定しています。
テキスト	各回のテキストは適宜配布します。
参考書・参考資料等	山内明美『子ども東北学』、石倉敏明・田附勝『野生めぐり』、菊地和博『シン踊り』、小野和子『あいたくて、ききたくて、度にする』、知里幸恵『アイヌ神謡集』、柳田國男『遠野物語』、岩崎敏夫『東北民間信仰の研究』、中沢新一『哲学の東北』、千歳栄『山の形をした魂』、田附勝『東北』、あんばいこう『中島のてっちゃん』等。

講義名	近代装飾デザイン史
(副題)	
講義区分	講義
基準単位数	2
時間割	月曜日 1 時限
授業科目区分	専門科目—専門共通科目—美術理論・美術史科目
履修区分	選択科目
配当年次・学期	3・4 年次前期

担当教員

氏名
◎ 天貝 義教

前提とする授業、密接に関係する授業	「デザイン史」「近代装飾デザイン史」「近代デザイン史特講義」と内容が関連している。
授業に関連するキーワード	各回の表題を参照。
授業の到達目標及びテーマ	この授業では、デザインにおいて形態とともに重要な意味を持つ装飾について、近代以降の歴史的な意義を学び、今日における装飾の創作の意味ついて理解を深めることを目的とする。
授業の概要	講義の前半では、19世紀後半から20世紀前半までのヨーロッパにおける主要なデザイン論にみられる装飾の意義を応用美術の観点から講述し、後半ではラスキン独自の芸術と結びついた経済の概念について考察する。
授業計画	<p>第1回 はじめに 19世紀後半のヨーロッパ装飾論</p> <p>第2回 歴史主義的装飾論</p> <p>第3回 アール・ヌーヴォーの有機的装飾論</p> <p>第4回 オットー・ヴァグナーの近代建築論における装飾の意義</p> <p>第5回 ヘルマン・ムテジウスの工芸論における装飾の意義</p> <p>第6回 20世紀前半の装飾論(1) アドルフ・ロースの装飾否定論</p> <p>第7回 20世紀前半の装飾論(2) ル・コルビュジエの装飾芸術論</p> <p>第8回 ラスキンの芸術論における装飾の意義 『近代画家論』『風景の真理と倫理』</p> <p>第9回 『建築の七灯』『ビルディングとアーキテクチャ』</p> <p>第10回 『ヴェニス石』『ゴシックの本質』</p> <p>第11回 『芸術経済論』『実用と装飾の二大目的』</p> <p>第12回 『この最後の者にも』『最大多数の高潔にして幸福な人間』</p> <p>第13回 『ごまとゆり』『王侯の宝庫』『王妃の庭園』</p> <p>第14回 『フォルス・クラヴィゲラ』『きれいな空気と水と大地』</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業時間外の学習内容等	各回の授業計画を参考にし予習と復習をおこない、講義内容の理解を深める必要がある。
評価方法	授業への取組み(40%)、レポート(60%)を基本に総合的に評価し、60点以上を単位認定要件とする。
履修上の注意	教科書ならびに参考書を熟読し、専門用語(日本語ならびに外国語)について理解を深めておく必要がある。
テキスト	デザイン史フォーラム編『近代工芸運動とデザイン史』思文閣出版 2008 ISBN-13 : 978-4784214389
参考書・参考資料等	ラスキン著『建築の七灯』岩波文庫版、モリス著『ゴシックの本質』みすず書房。その他の参考文献は授業において適宜紹介する。

講義名	日本彫刻史
(副題)	
講義区分	講義
基準単位数	2
時間割	水曜日3時限
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－美術理論・美術史科目
履修区分	選択科目
配当年次・学期	2・3年次前期

担当教員

氏名
◎ 井上 豪

前提とする授業、密接に関係する授業	「美術理論・美術史」「日本美術史」「東北造形史」と一部内容が関連する
授業に関連するキーワード	仏像 日本史
授業の到達目標及びテーマ	仏教彫刻を中心に日本彫刻史の流れを概観する。飛鳥時代の仏教受容に始まる日本の仏教美術は、大陸の先進文化を吸収しながら常に時代の先端として古代美術の世界を牽引してきた。本講座では日本を代表する名品について理解を深め、同時に宗教彫刻が表現する「時代の精神」について学びたい。様々な角度から総合的な彫刻史の理解を目指すのが目標である。
授業の概要	主に仏教美術の受容期と定着期に目を向け、仏像の名品を解説する。古代美術はどのように受容され日本の中でどのような流れを生んできたのか。スライドで作例の特徴を観察し、同時に文献資料などから制作事情や伝来など作例の背景を考えながら、時代の空気と不可分な仏像の表現を立体的に学んでいきたい。
授業計画	<p>第1回：序・彫刻芸術と「偶像」について 第2回：仏像の見方 第3回：仏教伝来と飛鳥寺の造営 第4回：法隆寺釈迦三尊像とその周辺～飛鳥止利様式 第5回：法隆寺四十八体仏と白鳳様式論 第6回：山田寺仏頭～国家官寺の時代 第7回：薬師寺聖観音像と薬師三尊像～白鳳から天平へ 第8回：東大寺大仏とその周辺 第9回：法華堂と戒壇院 第10回：興福寺・阿修羅像と八部衆十大弟子 第11回：唐招提寺と一木造 第12回：東寺講堂と密教彫刻 第13回：寄木造と定朝様式 第14回：運慶・快慶と鎌倉美術 第15回：まとめ</p> <p>※場合により一部入替や変更もありうるので了承されたい。</p>
授業時間外の学習内容等	図書館蔵書等の資料を読むことで授業を振り返り、理解を深める。
評価方法	試験の成績に授業態度を加味し、授業への取り組み20%、試験成績80%として採点する。単位認定要件は100点満点で60点以上とする。
履修上の注意	講義は一回完結の「読み切り」形式で進める。欠席しても次回の講義に支障は出ないが、欠席した回の内容は取り返しが利かないので注意されたい。
テキスト	内容に応じ毎回資料を作成、配付する。書籍等のテキストは使用しない。
参考書・参考資料等	必要に応じ講義の中で紹介する。

講義名	東洋美術史
(副題)	
講義区分	講義
基準単位数	2
時間割	木曜日 5 時限
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－美術理論・美術史科目
履修区分	選択科目
配当年次・学期	1・2 年次前期

担当教員

氏名

◎ 井上 豪

授業に関連するキーワード	中国 古代美術 遺跡 古代文化
授業の到達目標及びテーマ	中国の古代美術を概観する。数千年の歴史をもつ中国美術は時代と共に姿を変え、周辺民族とともにアジア文化の基層を形作ってきた。古代作品の数々は、我々の「失われた原点」をそのまま体現した貴重な遺産といえよう。 本講座ではスライドによる作品紹介と共に、文献や考古資料を用いた文化史的背景の考察も重視する。各時代特有の美術表現と、それを生んだ古代社会の風土や社会の在り方を学び、美術表現の持つ「世界観」についての理解を目指したい。
授業の概要	中国の古代美術を年代順に取り上げ個別に紹介する。スライドや配付資料を用いた作品解説だけでなく、考古学の知見に基づく遺跡の概要や文学史・哲学史から見た当時の文化的背景の考察なども重視、総合的な見地から美術表現とは何かを考えていきたい。
授業計画	第1回 序～古代美術と現代社会 第2回 殷周青銅器 第3回 三星堆遺跡と長江文明 第4回 曾侯乙墓 第5回 始皇帝陵 第6回 兵馬俑坑 第7回 馬王堆漢墓 第8回 馬王堆帛画 第9回 滿城漢墓 第10回 龍と雲気文 第11回 魏晋南北朝の書画 第12回 唐代壁画古墳 第13回 法門寺の宝物 第14回 宋代絵画の展開 第15回 まとめ ※場合により一部入替や変更もありうるので了承されたい。
授業時間外の学習内容等	図書館蔵書等の資料を読むことで授業を振り返り、理解を深める。
評価方法	試験の成績に授業態度を加味し、授業への取り組み20%、試験成績80%として採点する。単位認定要件は100点満点で60点以上とする。
履修上の注意	講義は一回完結の「読み切り」形式で進める。欠席しても次回の講義に支障は出ないが、欠席した回の内容は取り返しが利かないので注意されたい。
テキスト	内容に応じ毎回資料を作成、配付する。書籍等のテキストは使用しない。
参考書・参考資料等	必要に応じ講義の中で紹介する。

講義名	シルクロード図像学 1
(副題)	
講義区分	講義
基準単位数	2
時間割	金曜日 1 時限
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－美術理論・美術史科目
履修区分	選択科目
配当年次・学期	3・4 年次前期

担当教員

氏名

◎ 井上 豪

前提とする授業、密接に関係する授業	「美術理論・美術史」と一部内容が関連している。
授業に関連するキーワード	シルクロード 仏教美術
授業の到達目標及びテーマ	東西文明の行き交う絹の道は、インドから東アジアへ向かう仏教美術の道としても重要である。古代シルクロードの美術は、インドをはじめペルシアや西洋など様々な要素が混じり合い、それらが渾然一体となって独特の世界観を形作ってきた。本講座では仏教美術を中心にガンダーラから中央アジアにかけて作例を取り上げ、ペルシアやギリシアなど各地の遺品にその源流を辿りながら図像変遷の過程を追っていく。広大なユーラシア大陸を舞台に展開した、壮大な文化交流の姿について解説する。
授業の概要	仏教美術に見られる様々なモチーフを毎回取り上げて解説し、図像バリエーションとその意味について考察する。スライドを用いた図像観察と配付資料による文化的考察を並行し、多角的視点から古代美術を捉えていきたい。
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 ストゥーバから五重塔へ</p> <p>第3回 如来の服制と僧侶の袈裟</p> <p>第4回 菩薩の宝冠</p> <p>第5回 神将の甲冑</p> <p>第6回 執金剛神の図像</p> <p>第7回 邪鬼と崑崙奴</p> <p>第8回 飛天の姿</p> <p>第9回 極楽のイメージ</p> <p>第10回 須弥山と崑崙山</p> <p>第11回 風神の色々</p> <p>第12回 仏教における龍のイメージ</p> <p>第13回 如意宝珠の形象</p> <p>第14回 仏足跡と瑞像図</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※場合により一部入替や変更もありうるので了承されたい。</p>
授業時間外の学習内容等	図書館蔵書等の資料を読むことで授業を振り返り、理解を深める。
評価方法	試験の成績に授業態度を加味し、授業への取り組み20%、試験成績80%として採点する。単位認定要件は100点満点で60点以上とする。
履修上の注意	講義は一回完結の「読み切り」形式で進める。欠席しても次回の講義に支障は出ないが、欠席した回の内容は取り返しが利かないので注意されたい。
テキスト	内容に応じ毎回資料を作成、配付する。書籍等のテキストは使用しない。
参考書・参考資料等	必要に応じ講義の中で紹介する。

講義名	デザイン史特講
(副題)	
講義区分	講義
基準単位数	2
時間割	金曜日3時限
授業科目区分	専門科目—専門共通科目—美術理論・美術史科目
履修区分	選択科目
配当年次・学期	2・3年次前期

担当教員

氏名
◎ 天貝 義教

前提とする授業、密接に関係する授業	「デザイン史」「近代装飾デザイン史」「近代デザイン史特講義」と内容が関連している。
授業に関連するキーワード	各回の表題を参照。
授業の到達目標及びテーマ	この授業では、日本とヨーロッパとのデザイン交流についての基礎的な知識を身につけるとともに、今日におけるデザイン活動についての国際的視野を広げることを目的とする。
授業の概要	明治維新から第二次世界大戦後までの日本とヨーロッパのデザイン交流の今日的意義について、主要な万国博覧会への参同とヨーロッパへの留学生の派遣を手がかりにしながら講述する。
授業計画	<p>第1回 はじめに 文明開化と殖産興業のもとでの応用美術の振興</p> <p>第2回 ウィーン万国博覧会プログラムと日本語「美術」</p> <p>第3回 ウィーン応用美術博物館について</p> <p>第4回 ウィーン応用美術大学について</p> <p>第5回 平山英三のウィーン留学</p> <p>第6回 平山英三と松岡寿の工業意匠概念 汎美的意匠概念</p> <p>第7回 日本におけるアール・ヌーヴオーとセセッションの流行</p> <p>第8回 安田禄造のウィーン留学 経済的工芸概念</p> <p>第9回 東京高等工芸学校教員のヨーロッパ留学</p> <p>第10回 アーツ・アンド・クラフツ運動 『民衆の芸術』</p> <p>第11回 アーツ・アンド・クラフツ運動 『ユートピアだより』</p> <p>第12回 ドイツ工作連盟と工房運動</p> <p>第13回 民芸と産業工芸</p> <p>第14回 第二次大戦後の日本におけるモダン・デザインの理念</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業時間外の学習内容等	各回の授業計画を参考にし予習と復習をおこない、講義内容の理解を深めることが必要である。
評価方法	授業への取組み(40%)、レポート(60%)を基本に総合的に評価し、60点以上を単位認定要件とする。
履修上の注意	教科書ならびに参考書を熟読し、専門用語(日本語ならびに外国語)について理解を深めておくことが必要である。
テキスト	デザイン史フォーラム編『国際デザイン史』思文閣出版 2001 ISBN-13 : 978-4784210794
参考書・参考資料等	ウィリアム・モリス著『民衆の芸術』岩波文庫ならびに同著『ユートピアだより』岩波文庫版。その他は授業において適宜紹介する。

講義名	美術理論・美術史
(副題)	
講義区分	講義
基準単位数	2
時間割	金曜日 4 時限
授業科目区分	専門科目—専門共通科目—美術理論・美術史科目
履修区分	必修科目
配当年次・学期	1 年次前期

担当教員

氏名
◎ 天貝 義教
井上 豪

前提とする授業、密接に関係する授業	「東洋美術史」「西洋美術史」「日本美術史」「デザイン史」「近代絵画史」「日本建築史」と内容が関連している。
授業に関連するキーワード	授業計画の各回の表題を参照。
授業の到達目標及びテーマ	人間に固有の美術の基礎概念を理解するとともに、日本をふくむ東洋と西洋における美術創作の歴史を学ぶことによって、美術についての基礎的な知識を身につけることを目指す。
授業の概要	美術とは何か、美術の歴史とはなにか、という基本的な問題について、平易に解説する。古代ギリシアから20世紀のモダン・アートにいたる西洋美術の様式変遷と日本をふくむ東洋美術の様式変遷を概説する。
授業計画	<p>第1回 美術 (Fine Arts, Schöne Künste, Belle arti, Beaux arts) の基礎概念について (1)</p> <p>第2回 美術 (Fine Arts, Schöne Künste, Belle arti, Beaux arts) の基礎概念について (2)</p> <p>第3回 古代 (エーゲ海文明・ギリシア・古代ローマ)</p> <p>第4回 中世 (ビザンチンとゴシック)</p> <p>第5回 ルネサンス</p> <p>第6回 バロック</p> <p>第7回 古典主義・新古典主義・歴史主義</p> <p>第8回 まとめ (19世紀末・20世紀のモダン・アート)</p> <p>以上を天貝義教が担当する</p> <p>第9回 古代インドのストゥーパ浮彫</p> <p>第10回 ガンダーラ美術</p> <p>第11回 シルクロードの仏教美術</p> <p>第12回 中国初期仏教美術</p> <p>第13回 雲岡石窟と龍門石窟</p> <p>第14回 日本への仏教伝来</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>以上を井上豪が担当する</p>
授業時間外の学習内容等	授業中に配布する資料をつかい予習と復習をおこなって講義内容の理解を深める。
評価方法	授業への取組み (40%)、レポート (60%) を基本に総合的に評価し、60 点以上を単位認定要件とする。
履修上の注意	教員免許状取得のための必修科目。
テキスト	特に定めない。
参考書・参考資料等	授業において適宜紹介する。